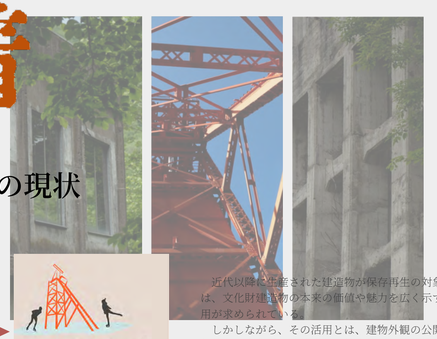
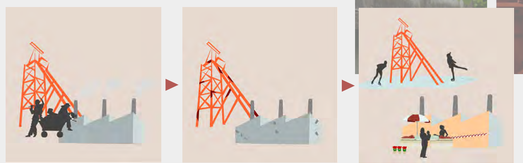
炭都終着

背景 ｜ 近代化遺産の保存と活用の現状



欧米諸国

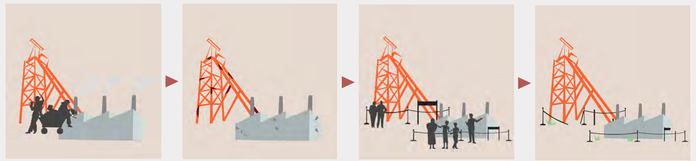


成長期に新しい産業と共に都市が形成される

産業が廃れ、人々は都市から離れる

遺構に別の産業を誘致、社会的・経済的機能を失うことなく、日常的なひとの営みが為される

日本国内



外観の公開を原則とした博物館やアートイベントとしての非日常的な利用

やがて「日常的なひとの営み」は消え失せてしまう

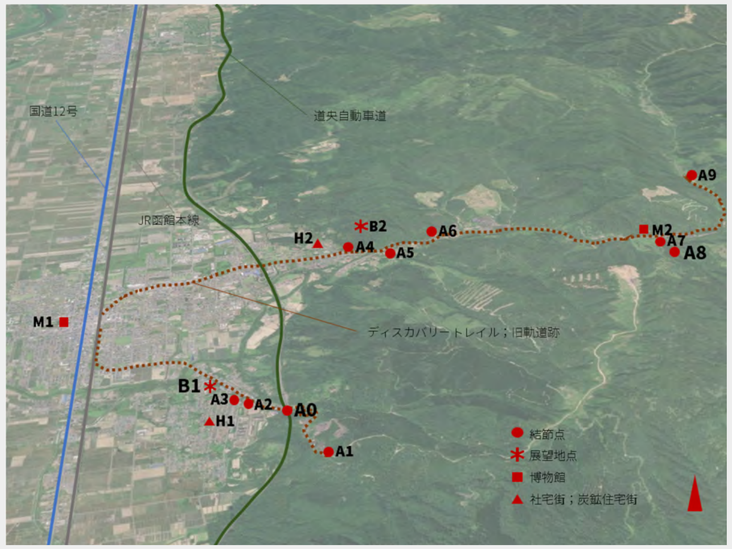
近代以降に建築された建造物が保存再生の対象となって以来、国内では、文化財建造物の本来の価値や魅力を広く示すためとして、保存・活用が求められている。

しかしながら、その活用とは、建物外観の公開が原則とされており、価値ある文化財の建築内部を社会的・経済的機能を失うことなく生きた形で保存できている例は、未だ少ない。

一方で、欧米諸国の廃鉱や廃工場には、新たなる産業の誘致、別分野での開発・活用の例が多く存在する。

道内の近代化遺産（主に、産炭地域の産業遺産）においても、アートイベントや博物館への一部転用などはあるものの、廃鉱に「日常的なひとの営み」は遮断されているのが実情である。

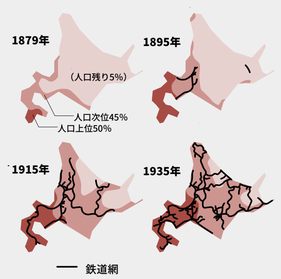
計画の対象地域 | 北海道美唄市東部



竪坑櫓などの石炭産業を今に伝える点として、計画の対象地域内に10か所、地域内の博物館と相当施設が2か所、産業労働者住宅地を2か所、それらを展望する場所を2か所。計16か所のポイントを同じく石炭によりもたらされた鉄道の旧軌道上でルートとして結ぶ。

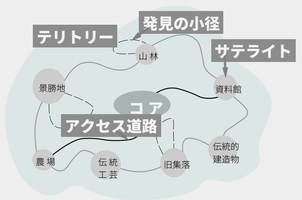
ルイスマンフォードが「新しい都市を生み出した因子は、鉱山であり、工場であり、鉄道であった」と述べたように、北海道の都市形成は、石炭の採掘とその積出のための鉄道網で捉えるとわかりやすい。
以下の図のように、鉄道の延伸とともに人口が定着するプロセスを明快に読み取ることができる。
道内産炭地域のうち、冒頭に述べた「日常的なひとの営み」のほど近くに未だまちが残り、都市圏との距離・人口などのまちのポテンシャルを考慮し、建物や過去の街を生きた形で保存できうる、素地を十分に持つとした美唄市を計画敷地とした。
美唄東部では明治期には、石炭の埋蔵が確認されており、石炭運搬のための鉄道開発網に都市の開発も進んだ。美唄鉄道や南美唄支線のように炭鉱開発のために敷設された各鉄道は、前談の道内鉄ネットワークの基本となっている。

■鉄道発達と人口分布の変化

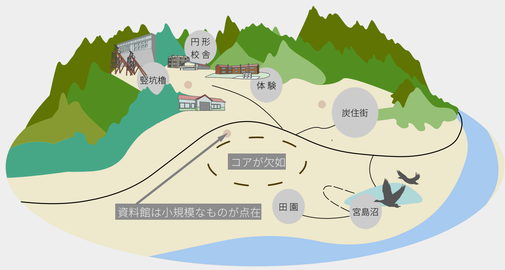


炭鉄港ストーリー構築事業報告書掲載図表を基に作成

■écomuséeの可能性



エコミュージアムの概略図



エコミュージアムとしての美唄市のポテンシャル

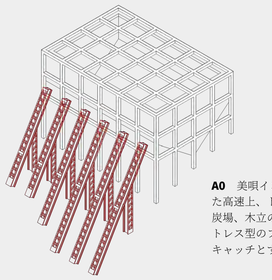
FOCUS：**A0**　PURPOSE：アイキャッチをつくる



市街のどの地点からも、竪坑櫓を捉えることができる（三笠市幾春別）



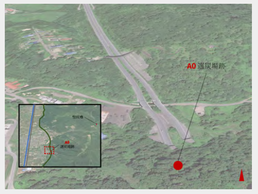
市街地が渓間に沿うように発展した美唄市では、高さ20余mの竪坑櫓でも、その寸前まで姿を拝むことはできない



A0　美唄インターから札幌方向に少し行った高速上、トンネル入り口の上に残る旧選炭場、木立の中目立たず隠れるこれにバットレス型のフォリーを沿わせ、まちのアイキャッチとする。









FOCUS：**B1**　PURPOSE：炭住を展望する視点場を設ける



まちにほど近いズリ山に登れば、忽然とした炭鉱住宅街のまちなみを俯瞰できる（夕張市清水沢）



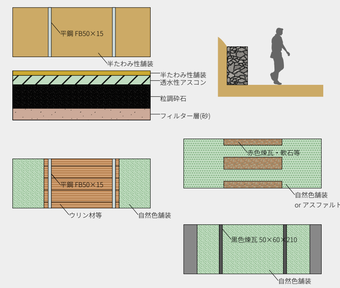
南美唄では市街地を展望できるような高い場所が存在しない





B1　炭鉱住宅街を俯瞰する機会があればそのリニアな印象の整然とした家々の並びに計画のうえ完成した、造成されたまちを感じることができる。
しかし、集落の傍にずり山のない南美唄では、街並みを俯瞰する場所がない。
旧南美唄駅・旧三井美唄小のあった場所（現在は公園）の炭住街をのぞむ軸線上に、視点場を設ける。

■ペーヴメントのデザインメニュー





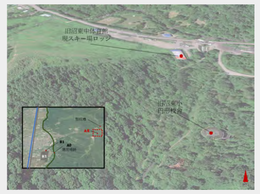






FOCUS：**A8**　PURPOSE：まちを再編し、コアを設ける

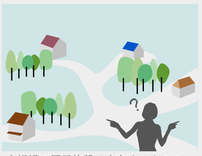




A8　スキー場のロッジとして、日常的なひとの営みが残る旧体育館と、ひとの営みが消え去り、荒らされている円形校舎の間という土地。鬱蒼とした木立の中に、住宅の基礎や廃屋の一部が残る。ここに、まちの一部を再編し、コアを設ける。



産炭産業に特化し、単独で情報展示機能と研究・学習機能を有する中核施設が存在（夕張市本庁、赤平市など）



小規模の展示施設は点在するものの、産炭産業に特化し、単独で完結した中核施設は存在しない





